



GSP JOURNAL



6月18日、GSPにおいて12講座もの高大連携プログラムが開講されました。



講座No.32 昔話法廷「三匹のこぶた裁判」



講座No.35 テーピングを上手に巻けるようになろう！(左)
講座No.42 ピアノの実技指導(右)



アクティブ・ラーニング

変わりゆく社会を背景に学校での学びも変化を余儀なくされ、近年特に強調されているのが「主体的・対話的で深い学び」です。その一例がアクティブ・ラーニングであるわけですが、これは批判的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力といった21世紀型スキルを身につける手段として注目されています。今月のGSPでは「昔話法廷“三匹のこぶた裁判”」「“SDGs de 地方創生”カードゲーム」「ストーリーマンガを文学的に読んでみよう」といった講座でその手法が取り入れられておりました。その講座の中で講師の先生が「物事の本質を見抜く力」「論理を多面的に展開する力」を身につけようと言われていましたが、これこそGSPの理念そのものです。一方的な講義に対しては受け身になってしまう高校生であっても、「主体的・対話的な学びの場」に入ると積極的に自分を表現し、他者の意見を取り込み、考え方の幅を広げていくことができます。「環境が人を育てる」という信念のもと、GSPでは今後も生徒たちが自分で自分を成長させていける場を提供していきます。



講座No.24 「SDGs de 地方創生」カードゲーム

GSPで広がる「知識」と「感性」の幅

【GSPを受講した感想】

◆テーピングはどんな時にするものなのかは知っていたけど、テーピングの巻き方や、どういう効果があるのかわからなかったの、それを学べよかったです。テーピングを巻くのは想像以上に難しかったけど、部活中などに怪我をした人がいたら巻いてあげられるくらいの知識はついた。

(テーピングを上手に巻けるようになろう！)

◆いつもとは違う先生のレッスンを受ける事で、表現の幅が広がったし、自分では分からなかったところも指導してくださり本当に為になった。他の人のレッスンを見ることもとても勉強になることが多かった。本当に楽しかった。(ピアノの実技指導)

◆起きていることに対して人が感じることや思うことはバラバラであり、特に医療現場などで起こる曖昧な言葉(少し、早くなど)による誤解を防ぐことが重要であることを教えて頂きました。

(臨床検査と医療従事者が果たす役割)



講座No.40 臨床検査と医療従事者が果たす役割

◆漫画のシーンの役割について考えたことがなかったので、今回の講座で作者の意図を考えるきっかけになった。(ストーリーマンガを文学的に読んでみよう)



講座No.34 ストーリーマンガを文学的に読んでみよう

◆国際系の学部のことを具体的に知れて、とても良い機会になった。また、留学に興味を持つことができ、してみたいなという思いが一層強くなった。(日本の大学で学ぶ外国語と異文化理解)



講座No.31 日本の大学で学ぶ外国語と異文化理解